

「神奈川ワーカーズ・コープ研究交流集会」をおえて

手島 繁一（法政大学講師・協同総研常任理事）

集会の概要

6月26日、横浜のユーコープ会館新館において「神奈川ワーカーズ・コープ研究交流集会」が開催された。協同総合研究所が、前日の総会、C I C O P A世界大会報告集会にひきつづいて企画・主催した集会であった。

本集会の詳細については、近日中に『報告集』を刊行する予定なのでそれを参照してもらうことにして、とりあえず集会の概略だけをお伝えすることにしたい。

集会の参加者は約200名。内訳は、ユーコープ（コープかながわとコープしずおかなどで組織）関係46名、ワーカーズ・コレクティブ関係17名、日本労働者協同組合（事業団）関係51名、協同総研関係48名などであったが、テーマがテーマだけに女性の参加者が3分の2近くを占めた。研究所の催した集会としては前代未聞のことであろう。

報告とコメント

集会の全体構成は次のとおり。

●問題提起 手島繁一（協同総研常任理事）

●報告

①「地域福祉」におけるワーカーズ・コレクティブの役割 伊藤康子（ワーカーズ・コレクティブ《想》代表）

②新しい働きがい求めて 佐藤和美（ワーカーズ・コープ《キュービック》理事）

③労働者協同組合がめざすもの 永戸祐三（日本労働者協同組合連合会副理事長）

④環境家電ってあり？ 都筑建（ワーカーズ・コープ《エコテック》代表）

●総括コメント

①神奈川ワーカーズ・コレクティブ運動—10年を経て、その現状と課題 小川泰子（神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会理事長）

②コープにおけるワーカーズ・コープの今後にむけて 井之川平等（生活協同組合コープかながわ

常務理事）

③労働者協同組合の経営 中田宗一郎（日本労働者協同組合連合会専務理事）

なお司会は、柳沢敏勝（明治大学教授）、石見尚（日本ルネッサンス研究所所長）の両氏が担当した。

討論とまとめの中から

フロアからの発言は、「新しい協同組合」的運動の実践報告と各報告・コメントへの質問および議論に大別できる。

前者では、愛知の子育てコープ、栃木事業団の「福祉と協同の里」構想とその実現をめざす取り組み、神奈川の「文化生協」、コープかながわの福祉・家事援助サービスのワーカーズ・コープ「愛コープ」、福祉クラブ生協がそれぞれ発言した。

後者では、①資本との競合の関係で、ワーカーズは「すきま産業」的領域でしか生存できないのではないか、②特に福祉の領域では、市場や公共との関係をどう考えるのか、また利用料金の設定についてはどう考えるべきか、③新しい働き方・生き方を求めることと事業的に成功することとの関係をどう考えるか、などといった刺激的で重要な論点をめぐって議論があった。

こうした議論を受けて、司会の石見氏は、われわれの運動が直ちにヨーロッパの労働者生産協同組合のように装置産業に関わることはできないにしても日本型のワーカーズ・コープのモデルを提案できる地点にはきているのではないかとまとめた。

時間の関係で十分な議論を尽くすことはできなかったが、労働者協同組合（事業団）、ワーカーズ・コレクティブ、ワーカーズ・コープという「社会的経済」の重要な構成主体と目されている組織が一堂に会し、経験を交流しながら、共通の目的にむけて議論することができたことは、大きな意義があったといえよう。